

達成目標理論から見たトップアスリートのモチベーションに関する研究

1230426 大畑成

指導教員 土屋哲

研究背景

「人を伸ばすカー内発と自律のすすめ」を読み、自律的に生きることは人生をより豊かにすること、並びに、自律的に生きることと動機づけの間には深い関連があることを学んだ。その過程で、自我関与、特に、トップアスリート（複数回、そのスポーツ界における最高峰の大会において優勝し、世界1位を経験してきた選手）のモチベーション維持において自我関与が果たす役割に興味を持った。

研究目的

本研究では、トップアスリートが成功を収め続けるために、モチベーションをどのように維持し続けているのかというメカニズムを、達成目標理論をもとに調査・分析し、明らかにすることを目的とする。

研究方法

本研究では、テニス界におけるトップアスリートであり、選手自身が書いた自伝を出版している、ラファエル・ナダル選手、マリア・シャラポワ選手を研究対象選手として選定する。それぞれの選手の自伝から、選手自身のモチベーション維持と関連がある文書の部分を抽出し、達成目標理論の枠組みに基づいて、分析・考察を行う。

分析結果

ナダル選手、シャラポワ選手に関するそれぞれの調査・分析より、両選手ともに、増大的運動能力観をもっている可能性が高く、多くの場面（敗北時、偉業達成前、偉業達成後）において、学習目標や熟達目標をもって行動している可能性が高いことが明らかとなった。また、シャラポワ選手に関する調査・分析からは、シャラポワ選手が、時には、テニスに対する圧倒的な自信と遂行接近目標をもって行動している可能性が高いことが明らかとなった。

考察・結論

テニス界におけるトップアスリートは、運動能力観においては、増大的運動能力観をもっている可能性が高いことが示唆された。また、多くの場面（敗北時、偉業達成前、偉業達成後）において、学習目標や熟達目標をもって行動している可能性が高いことが示唆された。そして、シャラポワ選手の調査・分析より、自信がある場合には、遂行接近目標が達成や内発的動機づけに対して、正の影響をもたらす可能性が高いことが示唆された。